



1. 2022年度日本エズラ・パウンド協会との合同大会プログラム (最終版)
2. アイルランド大使よりメッセージ
3. 合同大会報告 (シンポジウム、パフォーマンス、ワークショップ)
4. 第59回日本イェイツ協会年次大会 (予定)
5. 寄贈図書へのお礼
6. 会費納入のお願い

1. 第58回日本イェイツ協会・第43回日本エズラ・パウンド協会 合同大会プログラム

第1日

12:10～：受付 (35周年記念館2F 小講堂)

12:45：あいさつ 開催校幹事 原成吉

パウンド協会会長 長畑明利

イェイツ協会会長 佐藤容子

アイルランド大使 Damien Cole よりビデオメッセージ

13:00～16:00：シンポジウム

Modernism and Stone Cottage (「モダニズムとストーンコテージ」)

司会・講師 喜多文子 (中央大学)

講師 Andrew Houwen (東京女子大学)

講師 真鍋晶子 (滋賀大学)

講師 岩田美喜 (立教大学)

16:30～18:00：鯨井謙太郎氏による「鷹の井戸」上演、及び Post-Performance Talk

司会：遠藤朋之 (和光大学)

パフォーマンス：鯨井謙太郎 (オイリュートミスト/ダンサー)

第2日

イェイツ協会 研究発表 10:00～12:00

1. イェイツとペク・ソク：民へのまなざし

山内 正太郎 (明治大学/非)

司会 小堀 隆司 (城西大学)

2. "Sailing to Byzantium" と "Byzantium" — 「鳥」の表象とイェイツの「死生観」の変遷

尾澤 愛子 (千葉大学/院)

司会 奥田 良二 (東海大学)

3. 雪と炎の "simplicity"：ヨネ・ノグチ『広重』と W.B. イェイツの『ヴィジョン』の一考察

伊東 裕起 (城西大学)

司会 浅井 雅志 (京都橘大学名誉教授)

パウンド協会研究発表 10:15～11:45

1. 光の詩学—エズラ・パウンドからダイアン・ディ・プリマへ

小川聡子 (共立女子短期大学)

司会：関根路代 (日本工業大学)

2. "We know nothing and can know nothing but the dance"—William Carlos Williams とダンス

吉田亜矢 (京都大学)

司会：関根路代 (日本工業大学)

12:00～13:00：昼食、総会

13:00～15:30：ワークショップ「翻訳の詩学」

司会：伊達直之 (青山学院大学)

発表者：榎木伸明 (早稲田大学) 原成吉 (獨協大学)

15:40～15:50：閉会の辞

2. Text of video message from Ambassador of Ireland, Damien Cole

Minasama Konnichiwa. Airurando Taishi Damian Cole desu.

It is my great pleasure to greet the members of the Yeats Society of Japan, the Ezra Pound Society of Japan and everyone attending this conference.

I am delighted that the membership of the Yeats Society of Japan are holding their annual gathering in person again, after a two-year break. My thanks to Professor Yoko Sato, whose leadership has kept this society strong over the uncertain times of the pandemic.

This year's Joint Conference (between the Yeats Society and the Ezra Pound Society) is an exciting opportunity to explore the famous collaboration which led to the creation of Yeats's 'At the Hawk's Well'.

This play, based on Irish myth, but in a Japanese Noh structure, is a prominent instance of Japanese cultural influence on both Irish and European literature. I am delighted to see it will have a performance as part of today's event.

I am sorry I cannot join you in person today, but I look forward to meeting you soon and building our friendship and partnership with the Yeats Society, as we strengthen Ireland's presence in Japan and prepare for the opening of a new Ireland House in the coming years.

Meanwhile, I would like to congratulate Yeats Society President, Professor Sato and Pound Society President, Professor Nagahata, and wish all the delegates a stimulating and enjoyable conference.

Arigatou Gozaimasu.

3. 合同大会報告

今回のシンポジウムの目的は、イエイツの「鷹の井戸」に焦点を当て、彼とパウンドが共に過ごし、この作品が生まれるきっかけとなったストーン・コテージがモダニズムにおいて果たした役割を再考することである。その目的は、「日本」と「能」の二つの文脈を大きく超えて論じられることで達成されたように感じられた。まず、司会兼講師の喜多氏がパウンドの『猩々』の翻訳と「鷹の井戸」との類似性に注目し、議論をスペインのロペ・デ・ベガに接続していたことに大きな意義があった。Houen氏はシクレティックな宗教的文脈をこの作品に見出し、真鍋氏は能と対照をなす狂言を通じて、イエイツの詩学が本質的に持つ両義性を前傾化した。岩田氏は草稿を丹念に読みこみ、その「能劇」の韻やリズムに特に注目をすることで、イエイツの劇作家としての挑戦に光を当てた。ストーン・コテージが、モダニズムにおいて持つ意義がシンポジウムを通じて明らかになったと言えるだろう。(井上和樹)

11月12日、獨協大学の小講堂にてオリエントミスト・ダンサーの鯨井謙太郎(くじらいけんたろう)氏によるイエイツ『鷹の井戸』の上演が行われた。台本は氏御自身が作成されたもので、一人三役になっている。光と影のみからなる空間を演者の声と身体の動きが満たしていく。必然の間(ま)をはさみつつ舞台は最高潮に達して終了した。静寂の後で大きな拍手が上がった。ひとの運命に決定的な影響を振るう恐ろしくも神秘的な、容赦のない力に魅入られた若者(クープリン)は老人の絶望、疑念、そして惰性的ごとき執着をたどりつつ、自らは戦いに挑んでいく。演者は仮面に見立てられる粉飾を施している。イエイツ作品において仮面(anti-self)は自分を超越するための装置であって、本上演においても仮面を通して演者は登場人物になりきり、作品を演じ上げた。舞台後に素顔で現れた演者の表情は実に清々しく、望ましい変容の起きたことがあらためて強く感じられたのであった。(三宅伸枝)

両協会の会員の中でも精力的に詩の翻訳に取り組んでいる原成吉氏と榎木伸明氏が二日目のワークショップに登壇、ゲーリー・スナイダーとイエイツの翻訳という経験を通して考える詩の翻訳の意義を論じた。原氏は能を発想源とするスナイダーの「山の精」について、ビデオを紹介しながら彼が異文化のポエジーを自作に吸収した様子を示した。榎木氏はイエイツ詩の新訳とともに、漢詩の英訳やパウンドによる李白翻訳などの例から、正確な翻訳とは何かについて考察を展開した。

「よく準備した」翻訳か、「まっすぐな」翻訳か。研究者としては「まっすぐな」翻訳を提供する義務を感じながらも「よく準備した」翻訳を目指したい。しかしできあがった翻訳が「詩」になっているためには訳者の創作能力が必須だろう。その才能が十二分に感じられる両氏の仕事を垣間見て、「詩の翻訳は可能である」と確信しただけでなく、詩を訳す作業にひそむ創造的な飛躍の可能性を感じた。(柿原妙子)

4. 第59回日本イエイツ協会年次大会(予定)

土日の二日間ではなく日曜みの1日開催となります。

時: 11月12日(日)

場所: 立教大学(池袋キャンパス)

会場校をお引き受けくださった岩田美喜先生にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

・坂内太先生のご司会・構成により、岡室美奈子先生、小林広直先生、諏訪友亮先生にご登壇いただき、「W.B.イエイツの亡霊: イエイツ作品の共時的・通時的な文脈と影響について」というテーマでシンポジウムを行います。質疑応答の時間もございますので、会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

・研究発表も募集いたします

5. 寄贈図書への御礼

ポーラ・ミーハン『まるで魔法のように ポーラ・ミーハン選詩集』、大野光子、榎木伸明、山田久美子、河口和子、河合利江 編訳、思潮社、2022年

寄贈くださいました著者のみなさまには重ねて御礼申し上げます。

6. 会費納入のお願い

2022年度会費納入(一般7,000円、学生3,000円)をまだ済まされていない方は納入をお願いいたします。協会は、会員の皆様方の会費で運営されております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

すでに会費をお支払いくださいました皆様にはお気遣いに深く感謝いたします。

今回、2020年度からの会費納入状況のお知らせと合わせて、新年度(2023年度)の会費納入のお願いをさせていただきます。ご確認の上、ご不明な点などございましたらお問い合わせください。

*2022年に2021年度分をお振込みになられた方は、2022年分が未納になっておりますのでご注意ください。

振込先: ゆうちょ銀行

*ゆうちょ口座からお振込

総合口座 ニホンイエイツキョウカイ

口座記号 10100

口座番号 51712871

*他の金融機関からお振込

普通預金: ニホンイエイツキョウカイ

店名: 〇一八(ゼロイチハチ、セ〜でご検索)

店番: 018

口座番号: 5171287

(振込できない場合は51712871)



<日本イエイツ協会は、日本学術会議協力団体の登録団体です>

*****The Yeats Society of Japan*****

日本イエイツ協会事務局

〒606-8051 京都市左京区吉田二本松町

京都大学人間・環境学研究所

池田寛子研究室内

Email: ikeda.hiroko.2v@kyoto-u.ac.jp

